

Q&A 設立前後の先輩からメッセージ

新設統合に向け、体制や文化の異なる3LOMをまとめる工夫などございましたか。

旧LOMのしきたりや文化については出来る限り主張せずに、新しいLOMとして全てゼロベースで作っていかうと何度も会議の席で発言していました。とにかく1つにまとめていくという強い意志を持って活動をしていました。
特に1年目、2年目は対内的な事業を重視しました。知らない人同士が集まってできた新LOMの為、まずはコミュニケーションを深めなければ委員会活動や事業の目的を達成させることは出来ないと思っていました。
(初代理事長：鈴木秀幸)

価値観や共通言語、背負ってきた歴史も異なる3LOM(清水・旧静岡・駿河の各JC)が統合するということの大変さを強く感じました。衝突もありましたが、とにかく静岡JCを1つにするという事を重視して、ゼロベースで作っていかうという合言葉で活動をしました。また、鈴木初代理事長と2年がかりで作っていかうと話をしていました。
(2代目理事長：杉山茂之)

もう旧清水、旧駿河、旧静岡という言葉をつかわず、初年度・2年目が築いてきたものを受け継いで新しいロムとして活動していくことです。
(3代目理事長：久住与志人)

10年目を迎える新生静岡青年会議所へのメッセージなどよろしくお祈りします。

まちづくりを考えて欲しいと思います。大きなスケールで枠にとらわれないで、青年らしい壮大な何か面白い事をして欲しいです。失敗してもまだまだ許される年なんですから。未来学園等、代々の継続事業も大事だと思うが、新しい事にチャレンジして欲しい気持ちもあります。
10周年にむけて【のぞみを停めよう!】とか。もっと分かり易く静岡市民が喜ぶ事をしたらいいんじゃないでしょうか。
(初代理事長：鈴木秀幸)

とにかく失敗を恐れずに思いっきりやってください。「そんなことやるの?」というぐらい大きなことに青年らしい夢を描いて取り組んでもらいたいです。俺たちがこのまちを変えていくというような勘違いをするぐらい、小さくまとまるな!
(2代目理事長：杉山茂之)

人口が多ければ飲食店の新規オープンの混雑は長期間続き、投下資本の回収は早期に行えるなど、人口問題は衣食住全てに関わる事柄です。人口を増やすことがJCの役割とは思いませんが、40歳までの活力みなぎる青年だからこそできる、行政に頼られるような、家族・従業員がJC活動をしている父・社長を誇りに思えるような団体になって欲しいですね。
(3代目理事長：久住与志人)

JC「しか」なかった時代からJC「も」ある時代へ変わった。JCでしか絶対できないことがあることを確信しています。元氣よくバカをやっている姿をもっと見せてほしい。内々で盛り上がるのではなく、もっと大風呂敷を広げ、とにかく元氣よくやってもらいたい。JC活動ができるのも40歳までだけだから。また、公益社団法人ではなく一般社団法人を選んだ意味をしっかりつなげてください。市民へパトタッチする事務局的な役割は一般社団法人だからこそできることですから。
(4代目理事長 佐野博美)

地域の中で存在感や発言力、影響力をもっている組織でいてほしいと思います。ルールや上下関係が厳しいだけの社会人サークルではなく、歴史があって、街づくり人づくりに取り組んでいる団体として常に研鑽を怠らず、JCがあって良かったと思われる団体に成長させて下さい。そのために足元を見つめて行動する必要があります。
(5代目理事長 藤田圭亮)

今はNPOなどの集団が多くなりましたが、昔はJCしかありませんでした。そしてNPOは専門的知識を持った人が多く在籍して活動しています。JCメンバーは経済人であるので、専門的な活動というよりは、コーディネーター的な役割ができるリーダーになってほしいと思います。志を高く持つリーダーとなり、広い視野で問題意識を感じ取ることにより、NPOなどの専門知識を持った人と協力しながらリードしていけるような役割をもつ団体になってほしいですね。
(6代目理事長 青野博志)

JCは企業や行政のように、具体的に何かを変えていく組織ではありません。この組織が果たすべき役割とは、あらゆる不満や怒りを受け止めて、多くの人たちの心に良い方向に変えていこうとする思いが芽生えるきっかけを与えていくことだと考えます。
(7代目理事長 三浦新介)

「大変な場面から逃げないように。」を強く言いたい。大変なことを成し遂げることで情熱をつかみ、成長する。そして、それがまちに対する我々の役割となる。
(8代目理事長 藤田尚徳)

